

フィリピン小学校視察報告

フィリピンの英語事情

フィリピンの公用語はタガログ語(フィリピン語)で、その他にも地方にはたくさんの言語が存在するが、イロカノ語、ビコール語、ビサヤ語などが代表的な言語である。マニラの周辺で使われているタガログ語はテレビなどの普及により多くの国民から理解される言語となった。しかし、現地の人同士で話すときは、かならずその地域の言葉が使われる。それゆえ、英語は共通語として使われている。

英語は共通語であるばかりでなく、学校ではすべて英語で教育を受ける。家庭では、その地方の言葉を使い、学校では英語を使用するということになる。

最近のフィリピン人の英語力

私が最初にフィリピンに訪問したのは23年程前になるが、その時はあまり英語が通じなかった。小学校で英語を教えているの学校の先生達は英語を話したが、かなり訛りがあり聞きにくかった。10数年前もフィリピン人の英語にかなりの訛りがある事は変わらなかったと記憶する。しかし、昨年と今年フィリピンを訪れ、小学校の先生方や一般の方といろいろな話をする中で、その英語力と発音の変化に驚かされた。特に私立の学校の英語担当の先生方の発音は素晴らしかった。そして、一般のタクシーの運転士さんなども昔は人によってはあまり英語が通じなかったが、最近では普通に通じる。もちろん、まだ通じない現地の人もある。

しかし、日本の一般人の英語力はこの20年間大して変化がないのではないだろうか。日本人も留学やホームステイが昔と比べて頻繁になったので、多少は英語力が向上しているが、フィリピンの向上ぶりには目を見張るものがあった。

セブの小学校視察

昨年と今年セブにある私立と公立の小学校を個人的に視察させていただいた。私立と公立では家庭の経済力がかなり違っているが、どちらの学校を訪れても、子供達の目は輝き、先生達の情熱は変わりなかった。あえてなるべく1年生などの低学年の授業を見学させていただいたが、小学校に入学してから短い間に英語のレベルを急激に高め、かなり高度な授業を行っていた。

公立小学校

Maboro Elementary School

セブ市内中心部にある公立のマボロ小学校は1年生が13クラスもある大きな学校。全校では約3,000人の生徒が在籍する。その中で、2クラスは特進クラスがある。普通クラスを見せていただきましたが、こ

のクラスも読み書きは中3レベル、オーラルは高校生以上であった。靴を買うのが大変な家庭からの子どもが少なからずいる中、しっかりした教育をしていると感心する一方、子どもの学習能力の可能性について、改めて感嘆。

1クラス:30人程度

特進クラス:Section A&B 特進クラスに途中から入る事は出来ない。成績が悪ければ他のクラスか他の学校に移らなければならない。

特進クラスの進学率:半数が高校に進学、ほとんどが公立高校に行く。そのまた半数が大学に進学。

昼食:家に帰るか弁当、お弁当の中身は大して良くない場合もある。



Lahug Elementary School

やはり、セブ市の北側にある Lahug 小学校は全校で、年中から6年まで約5,000人の生徒が在籍する。1年生は18クラスあり、その内4クラスが selected classes(特進クラス)。どの学年も18~20クラス。

特進クラスの生徒達は daycare(保育園)K1(年中)、K2(年長)から上がってきている。ほとんどが公立の中学校に進学。その内80~90%が公立高校に進学。大学には半数が進む。生活環境が中レベル又はそれ以下の家庭から来ている。教科書は共有。お水は無料で、教室に備えてある。

昼食:お弁当は家庭から。学校でも買える。10~15ペソ(20~35円)

午前組み:7:30~10:50

午後組み:1:00~3:40

4年生の一部と5年、6年生は1日スケジュール

Grade 1 AQUA

生徒数27人、同じ先生が午後にAQUAの残りの22人を教える。



私立小学校

University of Cebu、Branch Mandana の付属校

私立セブ大学付属小は、担任の先生が指導するのではなく、教科の先生が指導を行っている。この日の授業は形容詞の授業であった。オーラルイングリッシュのレベルで言えば、日本の高校生以上のもの。たった入学して8ヶ月しか経っていないのに、かなり程度が高い。学校が終わると、補講の授業が有料で、普段習っている先生以外の先生で行われる。この学校の他に、Lapu Lapu City やマニラにも分校がある。旧セブ市長の Mr. Agusts Go が経営する。Go氏は他に、病院なども経営する。他の私立の学校は入学金が約 3000 ペソ (6000 円) 掛かるが、この学校は月謝を約 1000 ペソ払うだけで済むので、入学者が増えている。

宿題は週に 3 回、1 回あたり、15～20 分で出来る程度が出される。教科書は公立なら 4 人に 1 冊が貸し出される。ここでは、10 冊程度の教科書を購入。

教科書: Academic 7 冊、Remediation として Speech, Writing, GMRC (Good Manners and Right Conduct: Values Formation)



私立小学校

University of Southern Philippines の付属校

年長から 6 年までの 850 人の生徒が在籍。各学年 3 クラス。私立なので、教科別に先生が教える。フィリピン語の授業以外は全て英語

で授業を行なう。地元で使われているビサヤ語の授業はない。全てのクラスで top10 の生徒が選ばれ、教室に貼られる。

午前組み: 7:00~11:45(2 クラス)

午後組み: 12:10~4:50(1 クラス)

学期: 4 学期制, 6 月~8 月、9 月~10 月、11 月~1 月中旬、1 月中旬~3 月、4~5 月は休み、成績により remedial(補習) が一ヶ月あり、費用が別途かかる。

年間の学費: 12,000 ペソ(25,000 円)月に 2,000 円~2,500 円

(ガードマンの月収が 2 万円から、看護婦 4 万円、マネジャーが 8 万円なので決して安くない。)

進学: ほとんどすべての生徒が大学へ進学

2 年生の Bunny クラス Reading
の授業



3 年生 Reading の授業 "Is God
Taking My Picture?" という詩の授
業

